新撰

# 小學修身書

文學社編纂

嘉言篇　四

東京圖書館

| 新書門 | 十三部 | 八類 | 函 | 架 | 號 | 冊 |
|---|---|---|---|---|---|---|

K 110.1
184
4

文學社編纂　嘉言篇

新撰

# 小學修身書

全十一冊

東京
大坂

文學社發兌

東京帝國大學圖書之印

# 小學修身書卷之四

文學社編纂

## 第四章

○仁、義、禮、智、信、
是を五常といふ、
○五常は、人の性にして萬善の根

源なり、
仁とは、人を愛し物を憐むをいふ、
義とは、宜しきに從ひて事を處するをいふ、
禮とは、次序品節あるをいふ、
智とは、善と惡とを知り分くるをいふ、
右を四德といふ、
信は、此の四德に實あるなり、
○朱熹曰、己か心を盡すを忠とし、己を推して人に及すを、恕と爲す、
○佐藤坦曰、人を責むること深き者は、必自恕す、己を責むること深

き者は、必薄く人を責む、

○范純仁曰、人至愚なりと雖、人を責むるは明なり、聰明なりと雖、己を恕するは昏し、

○呂本中曰、君に事ふるは、親に事ふるか如く、官長に事ふるは、兄に事ふるか如し、

○程頤曰、此の邦に居ては其の大夫を誹らすといへる、此の理最好し、

○呂本中曰、官に當る法、唯三事あり、曰清、曰慎、曰勤、此の三の者を知れは、身を持する所以を知る、

○禮義あれは、貧賤なりと雖、人亦之を敬仰し、禮義なけれは、富貴な

りと雖、人亦之を鄙賤す、諸儒論小學

○荀況曰、幼にして敢へて長に事へす、賤にして敢へて貴に事へす、不肖にして敢へて賢に事へさるは、是人の三不祥なり、

○人譽むれは我謙す、又一の美を増すなり、自誇れは自敗る、又一の毀を増すなり、續小兒語

○范益謙曰、人書信を附せは、開拆して沉滞すへからす、

○又曰、凡人の物を借りては、損壞して還すへからす、

○顔之推曰、人の典籍を借らは、皆須らく之を愛護すへし、

○佐藤坦曰、多言すること勿れ、多言すれは、己の業を怠るのみならす、人をも妨くることあり、慎むへし、

○凡童子は、常に口を緘して静黙すへし、輕忽に言を出すこと勿れ、

童子習

○張思叔曰、字畫は必楷正、容貌は必端莊、衣冠は必肅整、歩履は必安詳、居所は必正静なるへし、

○胡安國曰、事に臨みては、明敏果斷を以て、能く是非を辨す、

○古語に曰、後生才の人に過くる者は畏るへに足らす、惟書を讀み

て尋思する者、是畏る〻〻、

○室直清曰、小人は、眼前の利を見て之を悅ひ、君子は、未然の害を見て之を恐る、

○細事と雖、亦まさに難きを以て之を處す〻〻、忽にす〻からす、況んや大事をや、讀書録

○貝原篤信曰、事を爲すには深く思案をこらして、輕卒に決定す〻からす、

○天子より庶人に至るまて孝に終始なくして、患の及はさる者は、未これあらす、孝經

○舟にして游かす、道にして徑せ

す、身は父母の遺體なり、之を行ふに敢へて敬せさらんや、小學詩禮

○愛敬は、人倫を厚くする道なり、父母を愛敬するは、又其の本なり、慎思錄

○佐藤坦曰、臨時の信は功を平日より重ね、平日の信は、効を臨時に



收む

○貝原篤信曰、人の誠ならさる所は、多くは言の上にあり、信を守るには、言語に心を用ゐて、實を以てすべし、

○松平定信曰、學問の道は、唯五常五倫を守り、善をして不善を爲さ

るにあり、

○貝原篤信曰、人の學問する所以の要二つあり、其の知らざる所を知り、其の己に知る所を行ふなり、

○又曰、技藝は、譬へは木の枝葉なり、學問は、譬へは木の根本なり、

○書を讀むには、首として志を立つるを要す、志を立つるには堅きを貴ふ、堅くして恒あれは、其の學必成る、讀書心法

○王守仁曰、志立たすしては、天下に成るへき事なし、百工技藝と雖、志に本つかさる者あらし、

○凡人、志ある者は、遂に能く礪磨

ーて以て素業を成す、顔氏家訓

○中井誠之曰、人志を立されは是に移り、彼に變ー、成るある者少ー、人は志を確定ーて、事を遂さるへからす、

○張知伯の曰、人の常情、儉より奢に入るは易く、奢より儉に入るは難ー、

○貝原篤信曰、衣服は儉素にーて飾少く、世の常にーて賤からさるを宜ーとす、

○又曰、質撲に過きて、穢はーく野鄙なるも惡ー、

○又曰、貧ーき人も、務めて垢つき

穢れさるを用ゐるべし、

○心に暫くも正理を離るべからず、身に暫くも正道を離るべからず、讀書録

○密室に坐するも、通衢の如くす、心を馳するも、六馬を馳するが如くすれば、以て過を免るべし、同上

○張思叔の坐右の銘に曰、凡語は必忠信、行は必篤敬、飲食は必慎節す、

○古語に曰、善に從ふは登るが如く、惡に從ふは崩るゝが如し、小學

○呂本中曰、一行、一住、一語、一默、須らく道に合はんことを要すべし、

○世に處するには多言を戒む、多言なれは必失言あり、治家格言

○喜に乘ーて多言すーからす、快に乘ーて輕易に行ふーからす、讀書録

○性躁かーく心粗暴なる者は、一事も成すことなーく、心和き氣平なる者は、百福自集る、菜根談

○葉仲圭曰、躁擾輕浮なれは、知る所の者も忘れ易く、守る所の者も失ひ易ー、

○蘇頌曰、人生は勤むるにあり、勤むれは匱ーからす、戸の樞は蠹せす、流水の腐らさるは是其の理なり、

○貝原篤信曰、富める人も美麗を好みて、無用の服を多く造るゝからす、

○君子は、人の美を成して、人の惡を成さず、小人は之に反す、論語

○君子は、言を以て人を舉けず、人を以て言を廢せず、全上

○後陽成天皇曰、難の中にて難を樂しめは難なく、貧の中にて貧を樂しめは貧なし、

○林和靖曰、心清からすしては、以て道を見ることなし、志確からすしては、以て功を立つることなし、

新撰小學修身書卷之四終

K11.0,1

明治十五年十月五日版權免許
同　十七年十二月　出　版

定價　五錢

編纂兼出版發兌　文學社
東京本町四丁目十六番地

發賣　文學社支店
大阪本町三丁目十六番地